

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 12 月 7 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (12/7 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約1.8 m ³ /h	25.9	106.3 kPa abs	A系: 0.00 vol%
		給水系:約2.3 m ³ /h			B系: 0.01 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約4.0 m ³ /h	38.5	5.63 kPa g	A系*2: - vol%
		給水系:約1.8 m ³ /h			B系: 0.06 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約4.0 m ³ /h	39.1	0.26 kPa g	A系*2: - vol%
		給水系:約1.8 m ³ /h			B系: 0.20 vol%

*1 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

*2 電源停止作業に伴いデータ欠測

- 【1号機】・12/6 22:45 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.2 m³/h から約 2.5 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 1.9 m³/h から約 2.0 m³/h に調整。
 ・12/7 11:40 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.3 m³/h から約 2.5 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 1.8 m³/h から約 2.0 m³/h に調整。
- 【2号機】・12/7 11:40 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.8 m³/h から約 2.0 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量は約 4.0 m³/h で継続中。
- 【3号機】・12/6 22:45 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.6 m³/h から約 2.0 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量は約 4.0 m³/h で継続中。
 ・12/7 11:40 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.8 m³/h から約 2.0 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量は約 4.0 m³/h で継続中。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (12/7 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	15.5
2号機	循環冷却システム	停止中	19.7
3号機	循環冷却システム	運転中	13.3
4号機	循環冷却システム	運転中	25

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

- 【2号機】・12/5 14:23 使用済燃料プール代替冷却システムにおいて、所内共通メタクラ1A～2Aの連系線ケーブル損傷の復旧作業としてケーブル接続作業を行うため、所内共通メタクラ1Aを停止する(停止期間は12/6 から 12/7 までを予定)ことから、事前に同システムを停止(停止時プール水温度:14.5℃)。
 ・12/7 15:27 所内共通メタクラ1Aの復旧に伴い、使用済燃料プール代替冷却系を起動。プール温度は冷却停止期間中に約 14.5℃から約 20.3℃まで上昇したが、運転上の制限値 65℃に対して余裕があり、プール水温度管理上、問題はない。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

- ・港湾内の物揚場に係留しているメガフロートについて、今後、港湾内での工事や資機材搬入のために輸送船等を着岸させる必要があることから、港湾内北側に移設する予定。移設にあたり、メガフロートには、5・6号機タービン建屋の溜まり水を貯留しており、低濃度の放射性物質が含まれていることから、海への放射性物質漏えいリスク低減のため 11/22 10:10より11:59まで、メガフロートから5・6号機周辺仮設タンク等への溜まり水の移送を実施。なお、移送については、概ね1ヶ月程度を予定。

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (12/7 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	運転中	停止中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・12/4 8:42 第二セシウム吸着装置(サリー)の信頼性向上を目的として、滞留水処理の移送ラインにおけるバックアップラインのうちの耐圧ホースを使用している範囲のポリエチレン管への取り替え工事に伴い、同装置を停止。なお、同装置の停止に伴い、同日 10:34、セシウム吸着装置を起動し、同日 10:38、定常流量に到達。

<5. その他>

・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5、6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。

・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。

・H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。

・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

・H24/12/6 8:31 流量低下が見られていた5号機残留熱除去系海水ポンプ(C)の点検手入作業が終了し、同ポンプを系統に接続するには一時的に残留熱除去系海水ポンプを全て停止する必要があることから、残留熱除去系(A)を停止(停止時炉水温度 32.7℃)。その後、同日 11:48 に残留熱除去系(A)を起動(起動時炉水温度 34.4℃)。起動時の炉水温度は運転上の制限値 100℃に対して余裕があり、原子炉水温度の管理上問題ない。

12/7 10:03 試運転を実施したところ運転に異常がないことから、5号機残留熱除去系海水ポンプ(C)の本格運転を開始。なお、5号機残留熱除去系海水ポンプ(C)内部および5号機残留熱除去系海水ポンプ(A)(C)設置位置床面にビニール片、木片を発見したため、これらを除去している。このことから、残留熱除去系海水ポンプ(C)の流量低下の原因は本ビニール片等による影響と推定。

・H24 12/7 9:10 10/23から11/26まで、1号機サプレッションチェンバ内への窒素ガス連続封入を実施したことにより、サプレッションチェンバ内の残留水素の大部分を置換できたと考えられたため、窒素ガス連続封入を停止していたが、サプレッションチェンバ内の残留水素を出来るだけ排出するため、窒素ガス連続封入を再開。

以上